

# 平成31年度 事業報告書

大慈あい小規模保育園

## 1. <基本方針>

- ①子ども・保護者一人一人をよく把握し、寄り添った保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。

## 2. <平成31年度報告>

- ①子ども・保護者一人一人をよく把握し、寄り添って保育を行う。  
→子どもとスキンシップを取り、安心して過ごせるようにした。  
保護者とコミュニケーションを図り、安心して預けられるよう関係づくりに努めた。
- ②保育理念をよく理解し、丁寧に保育を行う。  
→一人一人の気持ちを受け止め、丁寧な保育に努めた。
- ③保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。  
→職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。  
→園だより等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めていく。
- ④資質向上のため職場内、職場外研修を行う。  
→教育・保育部門合同研修を行った。  
11月7日、8日、19日、20日  
「子どもの主体性を育む。非認知能力を高めるには」をテーマに行った。
- ⑤日頃より、法人内園・児童館に行き、交流を深める。  
→基本、月曜日にたちばな児童館に行き、大慈ほまれこども園はもとより法人内園にも行き、楽しく遊んだ。
- ⑥リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。  
→園だけではなく、教育・保育部門全体の情報を共有し、想定内を増やすよう努めた。

## 5. <行事計画>

月	行事	月	行事
4月	入園式	11月	個人懇談
5月	運動会・個人懇談	12月	クリスマス会
7月	七夕まつり	1月	おもちつき
9月	運動会	2月	豆まき
10月	遠足ごっこ	3月	お別れ会・お別れ遠足・茶話会

### 月間行事

- ・お誕生日会（月1回）大慈ほまれ幼保連携型認定こども園にて
- ・発育測定
- ・防災訓練

### その他

- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検を年2回行う。

6. <<保健衛生計画>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月・年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育士全員検便	(株)有研により月1回以上

7. <<平成31年度在籍児一覧表>>

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	3	6	9	18	100%
5月	3	6	9	18	100%
6月	3	6	9	18	100%
7月	3	6	9	18	100%
8月	3	6	9	18	100%
9月	3	6	9	18	100%
10月	3	6	9	18	100%
11月	3	6	9	18	100%
12月	3	6	9	18	100%
1月	3	6	9	18	100%
2月	3	6	9	18	100%
3月	3	6	9	18	100%
合計	36	72	108	216	100%

8. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

平成31年度 事故 0件

平成30年度 事故 1件

① 事故発生内容

3					
2					
1					
0					
	転倒	落下	衝突	歯を打つ	誤飲
■事故	0	0	0	0	0

② まとめ

自分の思い通りにならなかった時に、手やおもちゃで友だちを叩いたり、ひっかいてしまうことが多かった。視野を広く持ち、一人一人の子どもの様子を見て、保育者同士声を掛け合う。また、些細なことでも情報を共有し、職員全体が把握して危険なことを減らしていくように心がけていきたい。

9. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・1件

平成31年度				平成30年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		2件	1件	1件

○まとめ

保育者の確認不足から雑費費用が発生したことで苦情につながった。

費用がかかることは、職員全員で何重にも確認をする。

10. <総括>

保護者の理解・協力を得て、子どもたちは笑顔で園生活を楽しんでいる様子がうかがえた。連携園である大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で過ごす時間を増やし、同年齢の子どもたちと触れ合う機会をつくった。それにより、季節の遊びや友だちとの触れ合いを楽しむことができた。

家庭での子どもの様子や、子育てで不安な保護者もいたため、家庭でも安心して子育てをしていけるよう寄り添っていきたい。

また、年度末には新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、年度末の行事ができなかったり、日頃の保育が特別なものになったりと初めて経験することになった。今後、どのようなことが起こっても、できることを最大限に行い、子どもや保護者、職員の命を第一に保育を進めていきたい。